

各位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会  
杵島農業振興センター

「稲作情報（第11号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第11号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R5 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R5 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.4	26.0	0.6	29.2	29.1	-0.1	22.4	23.4	1.0	90.3	127.0	141	16.3	2.7	17
	2	26.1	27.1	1.0	30.1	30.1	0.0	23.0	24.4	1.4	83.2	227.5	273	20.3	10.4	51
	3	26.7	28.3	1.6	30.9	31.7	0.8	23.5	25.5	2.0	61.9	35.5	57	24.2	16.4	68
	4	27.3	28.6	1.3	31.8	34.2	2.4	23.9	25.3	1.4	43.1	15.0	35	28.0	31.3	112
	5	27.7	28.2	0.5	32.5	33.5	1.0	24.2	25.0	0.8	36.2	7.5	21	31.4	25.8	82
	6	28.1	29.7	1.6	33.0	35.7	2.7	24.5	25.5	1.0	39.2	0.0	0	41.0	54.2	132

○7月6半月の平均気温は、平年に比べて1.6°Cほど高く推移した。また、降雨等もなく多照となった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：8月1日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
さがびより 6/22移植 武雄市橋町	本年値	64.8	436	11.4	40.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>草丈、茎数は平年並み。</li> <li>主稈出葉数は平年並み。</li> <li>葉色は平年よりやや濃い。</li> </ul> ※節間長 3~4mm 幼穂未確認
	平年値	66.3	441	11.4	39.6	
	平年比	98	99	0.0	+0.5	

※さがびよりの平年値はH21~R4の平均値。 耕種概要は稲作情報第9号参照

3. 管内の生育状況（8月1日時点）

- 1) 夢しずく（普通期）：現在、幼穂形成期～穂孕期である。  
6月下旬からの曇天の影響を受けて、全般的に草丈は高い。
- 2) ヒノヒカリ・さがびより：穂首分化期～幼穂形成期始期である。

4. 今後の管理

(1) 夢しずく（普通期）

○現在、穂孕期である。

- ・幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期である。連日の猛暑好天により白乾している圃場を確認されるので必ず湛水状態を保つ。特に穂孕み期から穂揃期（8月1日～8月20日）は浅水管理とする。
- ・初期生育量が十分に確保できずに、幼穂形成期以降草丈が伸長しうっぺいした圃場を散見する。そのような圃場では紋枯病を確認しているので、早期防除に努める。

## (2) 普通期水稻

○現在、まもなく幼穂形成始期である。

7月中旬までの曇天の影響を受けて、草丈が高く葉色が濃くうっぺいした圃場を散見する。

そのような圃場では、「葉いもち病」の病斑を確認しているので、穂肥の施用については、下記の診断基準に基づいて適期適量施用する。

### ①ヒノヒカリ

○6月下旬に移植されたヒノヒカリは、まもなく幼穂形成始期を迎える。

下記の診断基準により穂肥診断を必ず行い、適期適量の施用につなげる。

【表1 ヒノヒカリの穂肥診断基準】

草丈 cm 幼穂形成始期時	葉 色		穂肥施用時期			
	群 落	SPAD	出穂前	幼穂長	穂肥施用量 (N成分)	
80 cm 以下	淡い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1～2mm	3.0kg/10a
	標準	<b>3.0～3.5</b>	<b>34～38</b>	<b>18～20 日</b>	<b>3～5mm</b>	<b>3.0kg/10a</b>
	濃い	3.5～3.8	38～39	16 日	5～15mm	2.5kg/10a
	濃い	3.8 以上	40 以上	15 日	15～30mm	1.0kg/10a
80 cm 以上	淡い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1～2mm	2.5kg/10a
	標準	<b>3.0～3.5</b>	<b>34～38</b>	18～20 日	3～5mm	2.5kg/10a
	濃い	3.5 以上	38 以上	穂肥は施用しない		

### ②さがびより

穂肥の施用時期は、幼穂長10mmが基準となる。

幼穂長5mm以上になったことを確認してから、下表の診断基準により穂肥を施用する。

【表2 さがびよりの穂肥診断基準】

	幼穂形成始期の 草丈cm	葉 色		幼穂長	出穂前 日数	施用量 N成分kg/10a
		群 落	SPAD			
穂肥診断時	75 cm 以下 (標準)	2.5以下	33以下	5ミリ	20～18日	2.5kg
		<b>3.0</b>	<b>33-37</b>	10ミリ	18日	<b>2.0kg</b>
		3.5	37-38	15ミリ	16日	1.0kg
		3.8以上	39以上	施用しない		
	75 cm～ 80 cm	3.0以下	36以下	10ミリ～15ミリ	18～16日	1.5kg
		3.0以上	37以上	施用しない		
80 cm以上	施用しない					

## (3) 病害虫対策

・8月の病害虫予察情報（7月27日付け佐賀県農業技術防除センター発表）によると主要病害虫の発生量は以下のとおり。

作物名	病害虫名	平年比
水稻 (早植え)	穂いもち	並
	紋枯病	やや多
	トビイロウンカ	やや多
	コブノメイガ	並
	斑点米カメムシ類	やや多
水稻 (普通期)	穂いもち	並
	紋枯病	やや多
	白葉枯病	並
	もみ枯細菌病	並

	トビイロウンカ	やや多
	コブノメイガ	やや多
	フタオビコヤガ	並
	斑点米カメムシ類	やや多

## 1) いもち病

- ・葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底する  
発生が多いと予想される場合（上位3葉に葉いもち病の病斑を確認した時）には穂揃い期にも防除を行う。  
薬剤の使用にあたっては、使用時期や回数等の農薬の登録情報に注意する。
- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- ・葉色が濃い圃場で、葉いもち病の病斑を確認している。
- ・窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行なう。
- ・BLASTAM 情報は下表参照。



BLASTAM（ブラスタム）は、いもち病菌の感染に適した条件が表れたかを判定するモデルである。  
ブラスタムで好適条件が現れた場合、約1週間後からいもち病の初発あるいは病斑数が急激に増加することが予測されるので注意する。

### BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の出現状況

佐賀県農業技術防除センターHPより

7月

	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日
白石	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伊万里	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
嬉野	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

- 1: 準好適条件(湿潤が10時間以上であるが、前5日間の平均気温は20℃未満)
  - 2: 準好適条件(湿潤が10時間以上であるが、前5日間の平均気温は25℃以上)
  - 3: 準好適条件(湿潤が10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温は15～25℃の範囲外)
  - 4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- : 好適条件(湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもち病の感染好適条件が出現した)
  - : 好適条件の出現なし
  - ?: 判定不能

## 2) ウンカ類

- ・本年は、6月30～7月3日頃、7月7日～9日頃にトビイロウンカの飛来が確認されている。  
8月の気温は平年より高いと予想されており、今後増殖する恐れがあるため、本田防除の適切な実施が極めて重要である。なお、圃場の発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。

※図1 トビイロウンカにおける各世代の発生予測を参考に、圃場ごとの発生状況を確認したうえで防除対策を徹底する。

なお、トビイロウンカにおける各世代の発生予測は、その後の気温等により若干変わるので、最新データは、佐賀県農業技術防除センターHP等を参照する。

※8月1日現地巡回調査では、トリフルメゾピリム剤を使用している圃場の幼虫は中令を確認している。

表3 管内におけるウンカ類の払い落とし調査(R5)

調査日	セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
8月1日							
6/8播種	4	11	0	0	2	3	さがびより(白石町) ※ゼクサロン系無施用、7/25スタークル
6/17移植	45	3	1	0	16	3	夢しずく(江北町) ※ゼクサロン系無施用
6/22移植	2	1	0	0	2	3	さがびより情報田
6/24移植	0	0	0	0	0	0	さがびより(白石町)

※25株払落とし総数



図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第2版、2023年7月25日作成)

1. 6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月25日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

### 3) 斑点米カメムシ

- ・ 出穂15日前までの畦畔除草は、耕種的防除の観点から効果的である。

カメムシはイネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努める。

畦畔を100m歩いて、カメムシが3頭いたら、要注意である。



エノコログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処となっている

### 4) 紋枯病

- ・ 幼穂形成期以降は、各品種とも病気に対する抵抗力が弱まる。今後気温が高くなることから、紋枯病が一気に進展する可能性があるため発生には十分注意する。
- ・ 病斑が上位葉の葉鞘に進展する前の防除が効果的である。  
(液剤、粉剤の場合は出穂10日～20日前の防除を目安とする)

紋枯病



## 5. 大豆作情報（今後の管理）

・播種別の生育状況は以下のとおりである。

①7月15日～ 18日：本葉2葉期～3葉期

②7月21日以降：出芽期

- ・「フクユタカ」は、初生葉が出てから本葉4葉くらいまでは4日に1枚程度で出葉する。その後、2～3日の間隔で出葉し、7～12葉で開花期となる。

### (1) 中耕・培土

①中耕・培土には様々な効果があり、積極的に収量を上げるための重要な作業である。

#### 中耕・培土の主な効果

- 培土部分からの不定根の発生を促進し、養水分の吸収をよくする。
- 株元に土を寄せて、倒伏を防止する
- 土壌を膨軟にし、通気性を改善する
- 土壌を攪拌し、雑草の発生を抑える（雑草を防除する）
- 畦が作られ、排水性が向上する（表面排水を促進し湿害を受けにくくする）

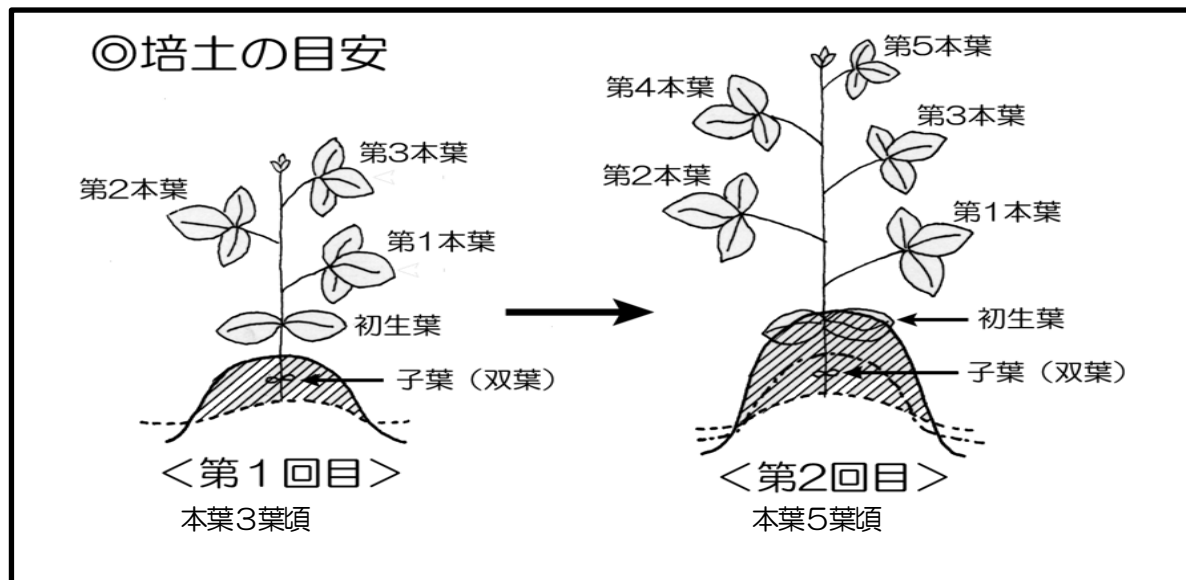
○ 1回目（本葉2～3葉期）…生育初期の雑草防除、土壌中への酸素供給。

○ 2回目（本葉4～5葉期）…除草効果＋土壌通気性向上

＋新根発生促進　＋倒伏防止。

**※ 培土は開花1週間前までに終了すること！**

②開花後の中耕は断根による悪影響が大きくなるので開花前に終わる。



### 2) 雑草対策

○イネ科雑草が多いところでは、ナブ乳剤（イネ科雑草3～8葉期まで）、ポルトフロアブル（イネ科雑草3～10葉期まで）で防除する。なお、除草剤の混用は薬害を助長するので行わない。

○アサガオ類が発生している圃場が散見されるので、圃場内はもとより、まくら地や畦畔で発生している場合も、必ず抜き取るか薬剤散布での防除を徹底する。

※出来るだけアサガオの本葉2～3葉までに薬剤処理する。ただしアサガオの種類によっては効果が劣る場合もある。

→アサガオ類は、繁殖力が強いことからそのまま放置すると次年度以降、さらに発生量が多くなるの

で、初発での薬剤防除を徹底する。

○また、近年ホオズキ類の発生も増加している。アサガオ類同様、難防除雑草であるため徹底した抜き取り、薬剤散布を行う。

※ 除草剤を散布する際は、周りの水稻にかからないよう注意し、無風時に処理する。

令和5年産 水稻作付期間気象図  
アメダス観測値(白石)

